

令和2年度 入学式 短大学長式辞

(令和2年5月8日オンライン入学式用)

只今、幼児教育科への入学を許可された皆さん、入学おめでとうございます。

ここに皆さんの姿がみられないことが残念でなりません。得たいの知れない「新型コロナウイルス感染症」が原因とは云え、入学を心待ちにしていた新入生の皆さん、そしてご家族の皆さんに心よりお詫びを申し上げます。

この数か月、多くの不安を抱えながら、いつ大学が再開されるのか心配していた方々も多かったと思います。この間、大学全体を挙げてコロナウイルス対策を講じ、いつでも皆さんを大学に迎え入れる準備を進めてきましたが、未だその時には至っていません。教職員一同、皆さんと共に当たり前のように学び合える時を心待ちにしております。

さて、私立大学が最も大切にするミッション・ステートメントは建学の精神であり、本学のそれは「孔子の教え」です。孔子の言葉が書かれている「論語」のすべてが本学の建学の精神と云っても過言ではありません。その教えの重要なテキストに四書五経があり、その一冊が「論語」となります。論語以外のテキストも、一度は皆さんに触れて欲しいのですが、ここで「書経」に書かれている一節を紹介しましょう。

— 天の作せる^な孽^{わざわい}は猶^{なほ}違^{ちが}くべし、自ら作せる^の孽^{わざわい}は違^{ちが}うべからず —

(商書・太甲中)

どのような意味でしょうか。

天災や自然災害は、人間の知恵や技術で克服することはできる。しかし、人間自らの活動で引き起こした変災・複合災害は逃れることができないと言い換えることができるでしょう。東日本大震災とその後の津波で引き起こされた原発事故は複合災害でした。今回の「新型コロナウイルス感染症」も、われわれ人類が築き上げてきた現代社会に対する警鐘・警句であるのかもしれませんが、今まで当たり前のように考えていた我々の行動は、ウイルスの餌食であり、ウイルスとの生死をかけた闘いだったのです。ですから、この流行が我々の行動に起因した変災であるならば、我々が変わらなければなりません。いま人々に求められている「行動変容」「新しい生活様式」が解決の道筋を必ず示してくれると信じます。しばらくは不自由な生活や不十分な学習環境が続くことになるかもしれませんが、変わることが打ち勝つことと信じながら、明るい未来を創造する時が今この時なのです。

結びに、若者である皆さんには、いまは慎重であること、その有り余るパワーを貯めておくことが求められています。しかし、そのような時は長くは続きません。明けない夜はないのです。朝が来た時にのっそりとスタートを切るようでは出遅れてしまいます。その時には有り余る力を発揮されることを大いに期待して式辞とします。

令和2年5月8日

いわき短期大学長

田久 昌次郎